

KGA GOLFER'S NEWS

2023 冬号 No.142

一般社団法人 関東ゴルフ連盟

2023年KGA主催 決勝競技詳報

特 集

JGA WAGスクール

青梅GCスクールレポート

TEAM KGA ジュニア

岩井ファミリーインタビュー

2024年度「TEAM KGA ジュニア」認定式

日本女子グランドシニアゴルフ選手権創設

プレーヤーズインタビュー



歩き出そう！もっと楽しく、もっと健康に。



「1 DAYプログラム」 青梅GCスクールレポート



生涯スポーツとしてのゴルフを、「始める」「復帰する」「継続する」を目指して、公益財団法人日本ゴルフ協会（JGA）が推進する「JGA WAG（ウィズ・エイジング・ゴルフ）スクール」の1DAYプログラムが9月11日から17日までのゴルフ健康週間に、全国24の施設で開かれた。その中から、東京・青梅ゴルフ倶楽部で開かれた1DAYプログラムの模様を紹介する。

深い緑が美しいコースでのイベントに女性4人、男性2人の6人が参加。倶楽部の板東範浩・副支配人と教師経験のあるベテランメンバーの在席下、指導者となって「楽しんでください」とプログラムがスタートした。まずは血圧、健康状態チェック、自己紹介。ほとんどの人がイベントを後援する自治体の広報誌やホームページの情報をきっかけにした参加で、「練習場に行ったことはあるがコースは未経験」「頸椎の手術を受けた後にゴルフに復帰した」などゴルフ経験もさまざまだった。

水分補給のペットボトルを持って練習場に移動、実際に体を動かす準備運動とストレッチに入り、緊張気味だった表情がなごやかになり、心身ともにリラックスしたようだ。グリップやスタンスのわかりやすい説明を聞いてから素振り。そして実際にボールを打つ。「いいですよ」「ナイスショット」とポジティブな掛け声に参加者のスイングもスムーズになっていく。

練習グリーンに移動してパットの演技。そして、コースに出ていよいよ実際のラウンド。パー5のホールを使って、3人ずつ

2023年12月25日発行
一般社団法人 関東ゴルフ連盟
Kanto Golf Association

1/ **特集1**
JGA WAGスクール
「1DAYプログラム」青梅GCスクールレポート

4/ **2023年KGA主催決勝競技詳細**
関東女子シニアゴルフ選手権
関東シニアゴルフ選手権
関東ミッドアマチュアゴルフ選手権
関東ミッドシニアゴルフ選手権
関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権
関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権
関東小学生ゴルフ大会
関東ジュニアゴルフ選手権 男子
関東ジュニアゴルフ選手権 女子
KGA杯ジュニアゴルフ大会 女子／男子

24/ **特集2**
TEAM KGA ジュニア
岩井ファミリーインタビュー
2024年度「TEAM KGA ジュニア」認定式

30/ **特集3**
日本女子グランドシニアゴルフ選手権創設
プレーヤーズインタビュー

32/ **コラム**
ありがとう。そして、さようなら富里GC。

33/ **INFORMATION**



岩井明愛・千怜・光太3選手のインタビュー記事は「特集2」に掲載されています。インタビューは10月9日、3選手がジュニア時代からお世話になっている嵐山CCで行われました。

編集／一般社団法人関東ゴルフ連盟広報委員会
統括／近藤勇樹（KGA広報委員長）
大竹 茂（KGA広報副委員長）
塚越克一（KGA広報副委員長）
久保田昌幸（KGA広報委員）
黒川秀昭（KGA広報委員）
鈴木一也（KGA広報委員）
高岡和弘（KGA広報委員）
富澤 仁（KGA広報委員）
本條 強（KGA広報委員）
池田正一（KGA広報委員）
北川外志廣（KGA広報委員）
鈴木暁理（KGA広報委員）
古谷隆昭（KGA広報委員）
裏表紙／富里ゴルフ倶楽部

「1 DAY プログラム」KGA開催倶楽部



立科GC



上野原CC



サンコーCC



グリーンパークCC



セブンハンドレッドC



栃木ヶ丘GC



那須伊王野CC



東松苑GC



鹿沼72CC



鹿沼プレミアGC



小山GC



鳥山城CC



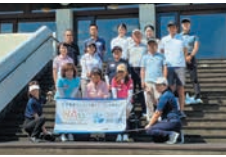
静ヒルズCC



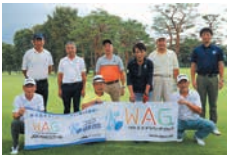
矢戸ヒルズCC



日高CC



嵐山CC



狭山GC



一の宮CC



千葉夷隅GC



葉山国際CC

開催倶楽部	所在都県	開催日	後援団体
立科ゴルフ倶楽部	長野県	9月15日	立科町役場
上野原カントリークラブ	山梨県	9月12日	上野原市教育委員会
サンコーカントリークラブ	群馬県	9月15日	高崎市スポーツ課
グリーンパークカントリークラブ	群馬県	9月15日	藤岡市
セブンハンドレッドクラブ	栃木県	9月11日	さくら市
栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部	栃木県	9月11日	栃木市スポーツ課市民スポーツ
那須伊王野カントリークラブ	栃木県	9月14日	那須町総務課
東松苑ゴルフ倶楽部	栃木県	9月16日	足利市市民スポーツ課スポーツ推進担当
鹿沼72カントリークラブ	栃木県	9月17日	鹿沼市総合政策部総合政策課
鹿沼プレミアゴルフ倶楽部	栃木県	9月12日	鹿沼市・栃木県ゴルフ場協議会
小山ゴルフクラブ	栃木県	9月13日	小山市
鳥山城カントリークラブ	栃木県	9月15日	那須烏山市
静ヒルズカントリークラブ	茨城県	9月11日	日立大宮市
矢戸ヒルズカントリークラブ	茨城県	9月12日	笠間市スポーツ振興室
日高カントリークラブ	埼玉県	9月13日	日高市政策秘書課
嵐山カントリークラブ	埼玉県	9月13日	嵐山町生涯学習課
狭山ゴルフクラブ	埼玉県	9月15日	入間市健康推進部スポーツ推進課・入間市ゴルフ協会
一の宮カントリークラブ	千葉県	9月15日	一宮町
千葉夷隅ゴルフクラブ	千葉県	9月15日	大多喜町役場・千葉県プロゴルフ協会
青梅ゴルフ倶楽部	東京都	9月11日	青梅市企画部秘書広報課・青梅市ゴルフ協会
葉山国際カンツリー倶楽部	神奈川県	9月11日	葉山町町民健康課



指導役を務めた板東範浩副支配人(左)と在原晴一氏



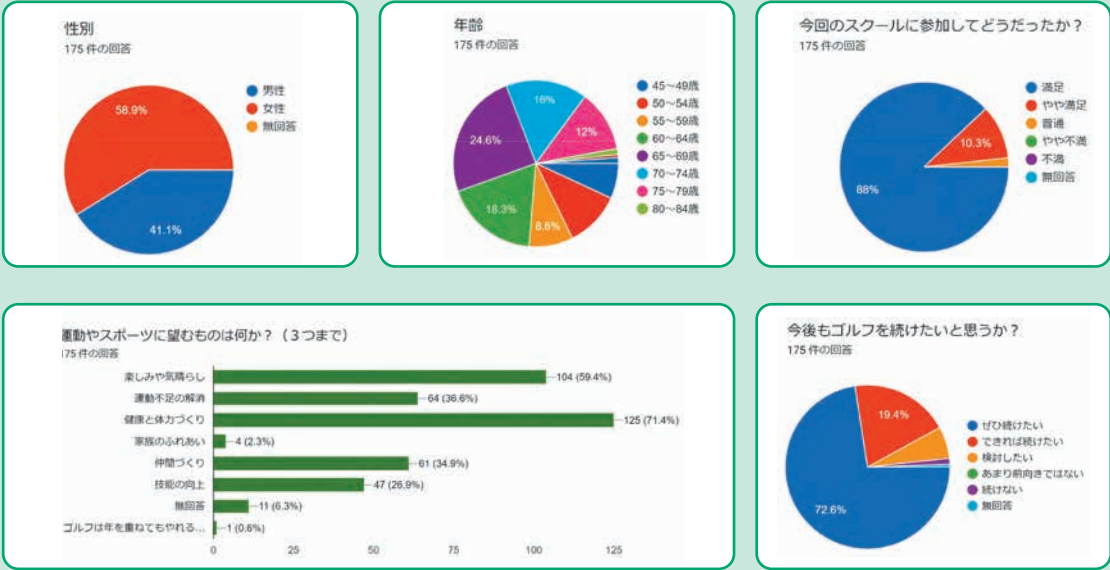
参加者による記念撮影。

のチームが1打ずつ交代に打っていく。つないで、つないでグリーンに乗せると「やったあ」と歓声も上がり、無事ホールアウト。最後はクーリングダウンの体操で締めくくり、一緒にプレーしたことで打ち解けあった参加者が笑顔で記念写真に納まった。クラブハウスに戻って感想などを述べあった。69歳の女性は「グリップや素振りから丁寧に教えてもらってとても参考になった。娘夫婦から一緒にコースに行きましよう」と誘われているんですよ」とうれしそうに話し、75歳の男性は「頸椎の手術をしてからゴルフに戻り、80歳まで歩いてプレーを目標に、バットを振ってます。その目標を85歳まで引き上げることにしました」と笑っ

た。他の参加者からも「また次も参加したい」の声が相次ぎ、指導者を務めた板東副支配人は「来年も内容を充実させて継続していきたいです」と話した。JGAがとりまとめたアンケート調査結果(下記参照)によると、参加者の内訳は女性が58・9%と男性を上回り、年齢は65歳から69歳が24・6%、60歳から64歳が18・3%と60歳代の参加者が多かった。「スクールに参加してどうだったか」への回答は88%が満足で10・3%がやや満足、8%がやや不満、2%が不満、無回答。運動やスポーツに望むものは健康と体力づくりが最も多く、125(71・4%)が「できれば続けたい」と回答した。今後もゴルフを続けたいと思うか? 72・6%が「ぜひ続けたい」と回答した。

「1 DAY プログラム」参加者アンケート調査

※資料提供: JGA





優勝は3名に、落合美詠子、内山汐里と近賀博子

3選手によるプレーオフは途中、
雷雲接近により続行不可能に。
36ホール競技1位タイの3選手が
優勝となった。



❶これまで関東女子倶楽部対抗の最優秀選手賞獲得も、KGAタイトルは初戴冠の落合美詠子選手。❷元世界ランカーのプロテニスプレーヤーで、現在はテニスの指導者でもある内山汐里選手。❸本選手権2連覇を達成した近賀博子選手。❹入賞選手たち。左から岡田かおり(4位タイ)、落合美詠子、内山汐里、近賀博子(以上、優勝)、金環子、上野千津美、田嶋優子(以上、4位タイ)。

たいへんな酷暑が9月も続く本年。千葉県中山カントリークラブにて関東女子シニアゴルフ決勝競技が開催された。開場60余年の夏の高麗グリーンを制し優勝したのは2日間154ストロークの落合美詠子(ニッソー)、内山汐里(東千葉)と近賀博子(久邇)の3選手。

優勝を決めるプレーオフは1ホール終了時、黒い雲とともにコース上空に雷が鳴り響き以降の競技継続見込み立たずの判断に。当初会場では、プレーオフ1ホール目をボギーとした近賀選手を3位とし、残った2選手が優勝と表彰されたが、後日の競技委員会での再度検討の結果、36ホールを終了し1位タイの3名を優勝とすることが決定された。

昭和世代の参加者達はその経歴も様々。日本女子オープン出場の強者もゴルフを始めたのは社会人になってから、決勝最終日はドライバーがとっ散らかって(コメントそのまま)もパターは外さない勝者、伊達公子世代で共に世界で切磋琢磨し今はジュニア育成に力を注ぐテニスプレーヤー。

はたまた留守にしてきた家や家族が遠征先でも心配の私、50歳を超えて最近結婚したんですと予想外の私。皆、額の汗も美しく、キレイに輝く同級同世代はバブル前後の時をかけぬけてここに立つ。仕事とゴルフ、家庭に、二刀流なんて当たり前よ。

ひとつのホールで+4、+5を打っても腐らず、互いに



開催コースの中山CCは1961年開場の林間コース。クラブハウスとコースを結ぶ吊橋はインスタ映える。



表彰式には入賞の競技仲間を祝福しようと多くの選手が出席し、歓声が絶えなかった。



最終18番でバーディーをマークした倉田タ子選手。

励まし、まとめた髪とネイルで凛としてたずむ姿はまさに美しい、愛すべきヤマトナデシコ。

決勝競技の結果、上位45名の選手が10月26日から兵庫県小野ゴルフ倶楽部で開催された日本女子シニアゴルフ選手権へと駒を進めた。マッチングスコアカードで採用が1名、同スコアでの涙を飲むのは6名。それでも人生はまだこれからが敗者復活戦でしょ、とその笑顔のプレーに此方が励まされた一日でもあった。

難関の最終18番パー4、156ヤードの会心のセカンドショットが綺麗な放物線を描き、ワンバウンドでホールをかすめる倉田タ子選手(東京カントリー)は、興奮さめやらぬ満面の笑顔で「これで全国に行けますよね」

仲良く笑顔でスタート

年齢もゴルフ歴も様々。でも、ゴルフはみんな真剣に、楽しく！



とその眼差しは素敵なウィメンズゴルファーのそのものであった。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	内山 汐里	東千葉	77	75	152
	落合 美詠子	ニッソー	73	79	152
	近賀 博子	久邇	77	75	152
4	上野 千津美	霞台	79	76	155
	金 環子	富士チサン	77	78	155
	田嶋 優子	パ協	77	78	155
	岡田 かおり	鳩山	73	82	155



入念な準備 水上晃男が2連覇達成

シニア競技には毎年強力なルーキーの
参入があるも、「65歳ぐらいまでは
頑張りたい」と意気軒高

■最終18番グリーン上。他の
3選手を圧倒したという感じ
の水上晃男(左端)。■吉田
裕明KGA副理事長からの優
勝杯の授与。



関東シニアゴルフ選手権は今年、充実するシニアゴルファー層に対応するために、新しい一歩を踏み出した。決勝競技の方式を従来の1会場2日間36ホールから、2つのコースを使って3日間54ホールの競技へと変更したのだ。

内藤正幸競技委員長は「シニアゴルファーの方が年々増加し、充実してきている。これに対して、決勝競技に進む人数がこれまでの120人前後では少なく、予選段階での1会場あたりの突破者も10人前後と少なかった。皆さんの要望に応えるためにも、思い切って2コース、3日間方式へと変更しました」とその理由を説明した。今年は10会場の予選を各25人前後が突破して、合計253人が決勝競技にエントリーした。

新たな試みの舞台に選ばれたのは、いくつかのKGA競技を開催してきた富里ゴルフ倶楽部とカレドニアン・ゴルフクラブ。2023年末の閉鎖が決まっている富里GCが最終日の会場となり、左右、前後に大きく振られたピン位置のセッティングとなった。これを見事に攻略したのが、前年チャンピオンの水上晃男選手(鷹之台)だった。1アンダーの首位タイでスタートした水上選手は、1番をバーディー発進すると、4バーディー、1ボギーの69。3日間を通してただ一人の60台をマークして2位の高橋聡選手(鴻巣)に3打差をつけて連覇を達成した。

「コースマネジメントを大事にしました。ピンが振られているので、第2打はここからと決めて、ティーショットを打って、しっかりと適切な距離を残す。ドライバー



5位入賞の各選手。■高橋聡(2位)、■神農英和、■石井淳二(以上、3位タイ)、■藤井幸博、■風間智行、■河内喜文(以上、5位タイ)

2コースを舞台に3日間・54 ホール競技

舞台は富里GCとカレドニアンGC。今年末閉鎖の富里GCでは、最後のKGA競技になった。



富里GCのクラブハウス



富里GCの名物ホール7番パー3



カレドニアンGCの18番パー5

を使ったのは数えるほどで、スプーンを不安く振って。あとは得意のアイアンで。2日目までは入らなかったパターも最終日はよく入ってくれた」。さりと振り返った水上選手だが、それを実践するためには入念な準備があった。暑さの残る9月に4週連続の競技に出場するために、6月からジムに通うトレーニングを積んできた。

「歩くこと、自転車をこぐこと、それにロープを使って体幹を鍛えること。運動の後の水がおいしくて」という。

シニアルーキーだった2022年に関東シニアと日本シニアゴルフ選手権を制して充実のときを迎えている社会人ゴルファーは、「シニアは次々に強い人が出てくる。今年も高橋さんに追い上げられました。また来年勝てるように精進します。65歳ぐらいまでは頑張

たいと思っています」と話した。

的確なコースマネジメントで安定したショットを積み重ねていくプレースタイルには王者の風格が漂っていた。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	水上 晃男	鷹之台	72	71	69	212
2	高橋 聡	鴻巣	72	72	71	215
3	神農 英和	平川	76	71	73	220
	石井 淳二	塩原	72	71	77	220
5	藤井 幸博	江戸崎	75	73	73	221
	風間 智行	富士レイクサイド	74	74	73	221
	河内 喜文	浅見	74	73	74	221



豊島豊 自分のゴルフを最後まで貫いて 競技レコードの11アンダーで ぶっちぎりの3連覇達成



■2位と1打差の8アンダーでスタートした最終日はふた桁アンダーを目指したという豊島選手。見事に目標に到達した。左は海老原寿人KGA常務理事。■最終日最終組で打倒豊島の1番手と目された水上晃男選手は惜しくも2位タイ。■最終日に1アンダーの健闘を見せた竹澤瞬選手(2位タイ)。■豊島選手と並ぶ最終日のベストスコア69をマークして4位タイに食い込んだ鈴木優也選手。■3年連続最終日最終組で今年こそその期待がかかったが4位タイとなった坂輪成章選手。来年こそ！

記録的な暑さが長く続いた2023年夏。関東ミッドアマの決勝競技はそんな酷暑が終わりを告げた翌週に開催された。そして、優勝候補筆頭の豊島豊選手(東千葉)が3日間で11アンダーという競技レコードで3連覇という結果となった。

「パワープレーヤーでもない私が周りを意識してゴルフをしても仕方がない。自分のプレーにできるだけ徹することが試合に臨む際の心構えです」と語る通り、最終日は2位と1打差でスタートしながら、一見淡々とラウンドを進めて優勝を勝ち取った印象だ。

この決勝競技は、初日・2日が矢戸ヒルズカントリークラブの東西18Hずつ36Hを使用し、最終日が西コー

ス18Hという新方式で行われた。

「私は、初日から西→東→西という形のプレーでした。人それぞれだと思いますが、コースが変わることで、個人的には頭の切り替えができて、前日のプレーを引きずることがなかったと思います」と、豊島選手は語る。

コースは9月20日過ぎまで高温が続いたこともあって、ラフが70mmほどと通常よりも20mm近くも長く、決して簡単なコースコンディションではなかった。ただ、新方式採用により、東西両コースとも6800ヤード台にヤードージ調整されたことも幸いして、スコアが伸びたようだ。

グリーンキーパーの乙野圭司氏も「ラフは伸びていましたが、距離的に見てある程度のアンダーが出るだ



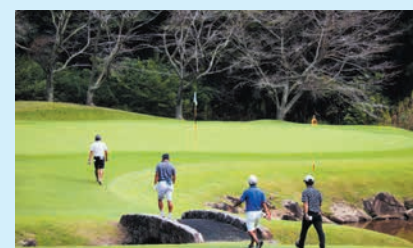
矢戸ヒルズCCのセットアップ



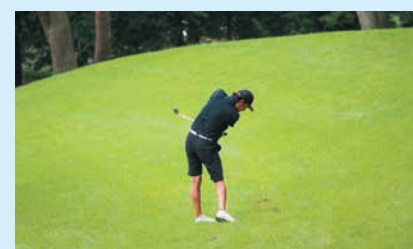
新方式により36Hを使用している。決勝競技は、240名超の多くの選手が争うこととなった。



東西36Hのコースの距離調整もあって、それぞれ6800ヤード前半となつたセッティングのためグリーン周りの小技でのミスは許されない。



「最終日、プロトナメントでもなかなか切らない(矢戸ヒルズCC乙野キーパー)という難しい位置にカップが切られた16番のパー3ホール。」



暑く長い夏の影響もあり、70mmというラフがコースの難易度をさらに上げた。

ろうとは思っていました。ただ、11アンダーは予想を遥かに超えていましたが……」と、語っている。

矢戸ヒルズCCは男子プロツアーの公式戦、日本ゴルフツアー選手権の舞台でもあるが、西コースについて乙野キーパー曰く、

「11番ホールまでにできるだけスコアを伸ばして12番からは耐えるというのが西コースの特徴です」という。

今大会では、東西に分かれる初日・2日に比べ、最終日はホールロケーションを厳しい位置にセットした。また、グリーン面に軽いローラー掛けを行い、スティンブメーターで10.75フィートと暑さの続いたグリーンとしては十分なスピードを確保していた。

そうした状況の中、12番以降、上位で唯一スコアを伸ばしたのが豊島選手であり、最終日も69と3アンダーで回っている。圧倒的な強さを感じさせる現状で、来年、関東ゴルフ連盟主催競技初の4連覇を期待するのは時機尚早だろうか。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	2R	Total
1	豊島 豊	東千葉	69	67	69	205
2	竹澤 瞬	ワンウェイ	70	71	71	212
	水上 晃男	鷹之台	69	68	75	212
4	鈴木 優也	津久井湖	72	73	69	214
	坂輪 成章	浜野	70	69	75	214



亀井 隆

木村利治



2



3



4

①最終ホールをホールアウト直後、笑顔で交歓する亀井、木村両選手。②優勝の亀井隆選手。③2位の木村利治選手。④昨年の日本グランドシニア選手権優勝の宮辰夫選手(3位)。

いつまでもライバルデッドヒート！ 亀井隆、狙ったタイトル



5



6



7

⑤上位入賞の各選手。左から室野歩、小久江正人(以上、5位タイ)、神羊二(4位)、木村利治(2位)、亀井隆(優勝)、宮辰夫(3位)、堀江隆(5位タイ)。
⑥神羊二 ⑦小久江正人 ⑧室野歩 ⑨堀江隆 ⑩エージシュート達成選手の平田泰博と松本勝治(最年長出場選手、81歳)。



8



9



10

今年の酷暑もようやく落ち着きを見せ、遠く富士山では初冠雪の10月、我孫子ゴルフ倶楽部にて関東ミッドシニアゴルフ選手権決勝競技が開催された。倶楽部の開場は1930年、まもなく100周年を迎えようとする歴史と伝統、赤星六郎からその後のモダンイノベーションを経たコースは朝日を浴びたマウンドの陰影が美しい。

関東各予選を経てこの決勝競技には128名の猛者が集った。

「グリーンがまた一段と速くなってるね」と引き締まった表情でティーイングエリアへ向かう決勝初出場の齊藤重一選手(御殿場東名)。決勝の2日間、阪田哲男選手(カレドニアン)と共にラウンドする高山祐一選手(赤城国際)はペアリングに興奮気味もスコアは引けを取らないプレーで魅せる。

皆幾多の競技会をくぐり抜けた強者ばかり、まだま

だ日焼けした顔で素晴らしいドライバーショットを放ちコースへと歩き出す。ベテランプレーヤー4名の背中和キャディーの押すカートの影は、日本の100年来のゴルフ競技のその影を重ねるかのような我孫子ゴルフ倶楽部の風景。

競技最終日は後半9ホールを迎え、勝負は最終組の亀井隆選手(唐沢)と木村利治選手(水戸グリーン)が1打を争う展開に。パーディー、ボギー、しぶとくパーと互いに流れを渡さない。

プレーオフもと思われた終盤17番、最難関パー4で200ヤード近いセカンドショットを強烈なアゲンストの中、亀井選手が的確にグリーンを捉える。ボギーとした木村選手をここで振り切った。

「いやー、本当に参ったよ。同級の亀井さんと優勝争ってこれで4回目、一度も勝たせてくれない」と木村選手。「でもこれで打倒亀井さんが次の試合、今後のモチ

ベーションになったわ」とまた闘志に火がつく。

最終18番もフェアウェイ真ん中から美しいドロボールでピン横2メートルにつけ優勝を決めた亀井選手は、「実はシニア競技で関東ミッドシニアのタイトルだけ獲得してなくて、どうしても欲しかった」と語る。関東シニアから日本シニアとミッドシニア、さらには日本シニアオープンのローアマチュアタイトルまで手の中に収めていて「これが最後のピース」と嬉しそう。

表彰式では、次はグランドシニアタイトルを取りますと微笑むと、先輩の宮辰夫選手(習志野)が「まだまだ渡さないよ」と手を振りNGを出す。皆いつまでも良いライバル。

決勝競技最終日の結果、上位37名の選手が11月の横浜カントリークラブで開催される日本ミッドシニアゴルフ選手権競技への出場権を獲得した。

今回、会場をご提供の我孫子ゴルフ倶楽部、まもな

く開場から100周年を迎え、2024年の日本女子アマチュア選手権開催やその後のメジャー競技も視野にと糟谷治男キャプテンは意欲を見せる。倶楽部の継続のみならず、この素晴らしいゴルフ文化の未来への継承、繋がりをとの姿勢は私達も大切にしたいと思う選手権であった。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	亀井 隆	唐沢	69	73	142
2	木村 利治	水戸グリーン	71	73	144
3	宮 辰夫	習志野	73	73	146
4	神 羊二	ノーザン錦ヶ原	75	72	147
5	小久江 正人	ホロン	75	73	148
	室野 歩	東千葉	74	74	148
	堀江 隆	マナ	72	76	148

我孫子ゴルフ倶楽部

開場:1930年 設計:赤星六郎

改造:ブライアン・シルバ、カイ・ゴールビー



朝日に輝く9番グリーン。



タフなガードバンカーを持つ18番グリーン。



青空を背景に名物のヒマラヤ杉と9番グリーン。



91打の悔し涙から2年 丸山菜々美が5打差の快勝

20歳を過ぎて始めたハンデを
負けん気の強さで克服



■松本典文KGA常務理事から優勝杯を授与され、満面の笑みを見せる丸山選手。

21歳からゴルフを始めた丸山菜々美選手(長野国際)が、わずか8年で関東女子ミッドアマの女王に輝いた。25歳以上が出場資格を持ち、常連から新鋭まで強豪がひしめく大会で、初日を唯一アンダーパーの71打で回った29歳の丸山選手。最終ラウンドの2日目は昨年に日本女子ミッドアマと同シニア選手権の二冠を獲得した近賀博子(久邇)、大会ディフェンディング女王の中谷玲(カレドニアン)、2017、19年優勝の平林治子(都留)、この日のベストスコア73をマークした堀野恵美(太平洋・御殿場)の各選手らが追いつけてくなくて、必死にしのいだ。

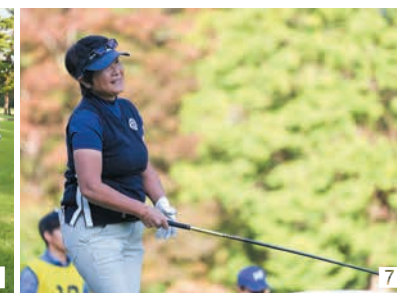
「途中からミスをしてはいけなかったら、体が回らなくなった」とショットがぶれ、13番までバーディー

なしの4ボギー。14番パー4ではラフからの第4打が3メートルもオーバーするピンチを迎えた。しかし、このバットを強気に打ってボギーにとどめると15～17番をパーとして落ち着き、終わってみれば2位に5打差をつける快勝だった。

長野県長野市出身。両親も兄もバドミントンの国体選手で、自身も4歳からバドミントンを始めた。しかし重圧もあったのか「親も家も嫌になった」と高校を中退し、バドミントンに別れを告げて働き始めた。20歳を過ぎたころに知人の男性からゴルフを勧められてコースに出ると、その飛距離を伝え聞いた塚田陽亮プロから「本格的にゴルフをやるべきだ」と言われ、それからはゴルフ漬けの日々。連日のように2時間打ち



■優勝の丸山菜々美(中央)と2位タイの各選手たち。左から近賀博子、中谷玲、丸山、堀野恵美、平林治子。■堀野選手は第2Rのベストスコア=73で、28位タイから2位入賞。



■競技終了直後、近賀選手(左)は丸山選手を祝福のハグ。■2位タイの平林選手(左端)と中谷選手(左から3人目)。■最年長出場選手の金子弥生選手。■「インスタ映え」する、1番ティー前方の石橋。■両日とも好天で、選手は笑顔いっぱい。

放題の練習場をはしごして1日600球を打ち続け、昨年は4度目の挑戦で長野県女子アマチュア選手権を優勝するまでになった。

「20歳を過ぎてからゴルフを始めても、こういうところまで来るといいことを示したい。年を取ったから飛距離が出なくてもいいとか、そのように思うのが一番嫌い。練習すれば飛ぶ。だから練習するんです」。負けん気の強さが言葉の端々からうかがえるが、表彰式のスピーチでは泣きじゃくった(写真②)。

「2年前のこの大会で緊張し、初日に91打も打ってしまった悔しさを思い出したんです。それに今年の長野県女子アマを連覇できなかった悔しさも…。勝った喜びよりも、負けた時の辛さが先に思い浮かぶ。物心

ついた時からクラブを握る選手が増える中で、成人となってから第二の夢に出会い、目標に邁進できる原動力は、こんなところにもあるのだろう。今後もアマチュアの頂点を目指すと同時に、2024年は3度目のプロテスト挑戦も視野に入れている。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	丸山 菜々美	長野国際	71	78	149
2	堀野 恵美	太平洋・御殿場	81	73	154
	平林 治子	都留	79	75	154
	中谷 玲	カレドニアン	78	76	154
	近賀 博子	久邇	76	78	154



ハンディキャップがあるから楽しめる エンジョイできるKGAの公式戦



「女子の部」5位入賞選手。左から渋谷みどり(4位)、田戸岡美幸(2位)、山下優(優勝)、白根佐知子(3位)、西山恵子(5位)。



「男子の部」5位入賞選手。左から藤巻翔也(4位)、白柳剛(2位)、荒井淳(優勝)、樋口剛博(5位)。



出場最年少で優勝の山下優選手。



女子ローエストHDCP=5の西原貴美選手。



男子の優勝の荒井淳選手。



男子のローエストHDCP=0のスラク・ラッタナン選手。

紺碧の空、秋晴れの下、選手たちは誰もが優勝のチャンスありと張り切っている。というのも皆それぞれハンディキャップを持ち得て戦うことができるからだ。特にハンデが多ければこの日の調子次第ではチャンピオンになれる。それだけに群馬県からは赤城国際カントリークラブと初穂カントリークラブ、長野県からは豊科カントリー倶楽部が大勢予選に挑戦、本選にも多くの選手たちが出場を決めた。

ユニフォームなども揃え、倶楽部対抗のような和気藹々の雰囲気が漂う。もちろん、一人で出場している選手たちもスクラッチ競技のような緊張感はない。みんな笑顔だ。

女子からスタートして男子が続く。いち早く上がっ

た女子35名の頂点に立ったのは最年少でハンデ16の山下優選手(JGAプレミアム会員)。88であがり、ネット72。日焼けした顔がほころぶ。

「グリーンが素晴らしくて速いものだから前半は3パット連発で4パットもあって47。でも徐々にスピードに慣れてきて後半は41。ドライバーが曲がったけど運良くラフに残っていたりしてラッキーで優勝できました」

それから1時間半後に男子73名がすべてホールアウトした。一時はハンデ34でゴルフ歴1年という最年少の藤巻翔也選手(松本浅間)が首位だった。ビギナーの優勝かとクラブハウスも活気づいたが、後続のハンデ11の荒井淳選手(グリーンヒル長岡)が76であがり、ネット65の断トツ優勝だった。見た目は40代という若々しい60歳。



1男子最年長の小川泰三選手(76歳)。2女子最年長の位下和子選手(右から2人目)。3当日は絶好のゴルフ日和だった。43人が入賞した第5組の選手たち。5赤城国際CCの岡本典子(左)と阿部香織(右)選手。6夫妻で出場の丸山宏章・千春選手(豊科CC)。7ハイエストHDCP=34の藤巻翔也選手(左端)も楽しそう。8初穂CCのユニフォーム姿の岩崎よしみ(左)と位下和子(右)選手。9初穂CCから男子は6選手が出場。



「自分はスキーヤーだったのですが、04年に前十字靭帯を断裂しまして、それから本格的にゴルフを始めました。最近調子が良かったアプローチが決まってくれて、たくさんパーを拾えました。グリーンは難しかったのですが、ハウスキャディーさんのアドバイス通りに打ったら、パットも入ってくれて優勝できました。ハンデがあるっていいですね」

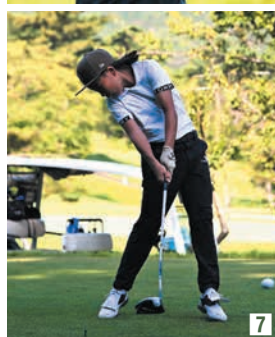
KGAの競技の中でもこの競技は敷居が高くなくて楽しいと言った選手が多かった。それだけにこの競技だけ参加しているとも。競技ゴルファー拡大のために1995年から始まったこの競技、どんな人にも優勝のチャンスありだけに、もっともっと多くのゴルファーに参加して欲しいものだ。

決勝競技入賞者(男子)

ランク	名前	所属	GROSS	HDCP	NET
1	荒井 淳	グリーンヒル長岡	76	11	65
2	白柳 剛	ワンウェイ	89	20	69
3	岡部 栄一	赤城国際	82	12	70
4	藤巻 翔也	松本浅間	104	34	70
5	樋口 剛博	伊香保国際	80	9	71

決勝競技入賞者(女子)

ランク	名前	所属	GROSS	HDCP	NET
1	山下 優	JGAプレミアム会員	88	16	72
2	田戸岡 美幸	赤城GC	85	13	72
3	白根 佐知子	太田双葉	83	9	74
4	渋谷 みどり	八王子	86	12	74
5	西山 恵子	東京都ゴルフ連盟	87	13	74



優勝を分け合った①五十嵐歩叶、②衣川真夢。3位タイの③宇津木さやか、④佐野心咲。⑤68の好スコアをマークした岡田凜空。2位タイの⑥池田烈琉、⑦須藤はんと。

男子は唯一60台の岡田凜空が制覇 女子は五十嵐歩叶と衣川真夢が優勝

猛暑の中の開催も、
手厚い健康管理態勢で無事終了。



⑧ハーフターンの休憩時。猛暑に負けず、食欲はもりもり。⑨2人の看護師が選手の健康状態を優しくチェック。⑩当日は、暑さとの戦いでもあった。



会場の矢野ヒルズカントリークラブがある茨城県笠間市の気温はこの日、正午が35.5度で、13時が35.8度。選手、大会関係者にとって、競技は暑さとの戦いでもあった。

運営に当たった関東ゴルフ連盟ジュニア育成委員会は、看護師2人に依頼し、入場時とハーフ終了時、競技終了時に、選手1人1人の健康状態をチェック。さらに暑さ指数WBGTを計測し、危険な場合はすぐに競技を中断できる態勢を取った。

また、前半、後半とも、全選手を途中の茶店で10分間休ませて水分補給をさせ、ハーフ終了時点では40分間の休憩を与えて飲食を取らせた。男子選手2人が、軽い熱中症で途中棄権したが、看護師の適切な手当で元気を回復。他の選手は無事にラウンドを終えた。直後に行われた関東ジュニアゴルフ選手権決勝や、8月のKGA杯ジュニアゴルフ大会でも同様の対策が取られている。

暑さにもライバルにも打ち勝って、男子優勝を果たしたのが岡田凜空選手。5バーディー、1ボギーの68という見事なスコアをマークしてみせた。昨年のこの大会で、5年生以下では最高順位となる2位に入っており、順調な成長ぶりを証明したと言える。

1メートル65の体から放つ260ヤードのビッグドライブが魅力だが、本人は「52度のウェッジを使ったアプローチが、みんな“OK”に寄った」ことを勝因に挙げた。

好きな選手は、アメリカ屈指の飛ばし屋であるブライソン・デシャンボー。「1メートル80、80キロの体になって、350ヤード飛ばすようになる」。大技、小技を兼備し、世界で活躍する大型プレーヤーを目指す。

女子優勝の1人、衣川真夢選手も、昨年のこの大会で5年生以下では最上位の4位に入り、今年は頂点に

立った。

自宅の芝生の庭で毎日、アプローチ練習ができる恵まれた環境にあるが、この日のプレーを支えたのはパター。「5メートルくらいが、けっこう入って」24パットにまとめた。この1年で、ドライバーの飛距離は10ヤード伸びた。「アイアンの方向性をもっと高めないと」と衣川選手。夢である「世界一のプロ」を目指すための課題を挙げた。

女子優勝を分け合った五十嵐歩叶選手は、後半、9ホール中8ホールでバーオンを果たし、2バーディー。正確なショット力を武器に、大舞台で自己ベストスコアとなる72をマークした。5月に行われた群馬・新潟ブロック予選で、2位に10打差を付けた強さを、本番でも披露した。

長い冬の数か月間、雪でゴルフ場がクローズになるハンディを、室内練習場での打ち込みや、スイングで補っている。目標は、やはり「海外で活躍すること」と話したが、「強い中にも愛想があるプロになる」と、明るい笑顔で加えた。

決勝競技入賞者(男子)

ランク	名前	所属	Total
1	岡田 凜空	町田市立小山田小・6年	68
2	須藤 はんと	柏市立酒井根小・6年	70
	池田 烈琉	いすみ市立中根小・6年	70

決勝大会入賞者(女子)

ランク	名前	所属	Total
1	五十嵐 歩叶	長岡市立柿小・6年	72
	衣川 真夢	開智小・6年	72
3	宇津木 さやか	開智望小・6年	73
	佐野 心咲	昭和女子大附属昭和小・6年	73



学校の枠を超えた祝福の水かけ
猛暑も吹き飛ばす青春の輝き

「12～14歳の部」3位入賞選手。■左から西山修生(2位、写真■も)、戸村空汰(優勝、写真■も)、竹田亮太(3位、写真■も)。

青い空、真っ白なバンカーとグリーンの緑。美しい夏色のカレドニアンGCが決勝の舞台。今年は、日本列島を包んだ猛暑の影響で、ハーフ終了後に看護師の健康チェックと40分の休憩、さらにコース内茶店での10分間の休憩など熱中症対策を十分にとって開催された。

7032ヤードでパー71、そして複雑な起伏の高速グリーン。そんな難コースが相手でも、近年のジュニア層のレベルアップは素晴らしく、上位選手が次々に好スコアをたたき出した。「15歳～17歳の部」を制した志村由羅選手(埼玉栄高3年)は3日間とも60台をマークして通算12アンダーの201ストローク。ピンの位置が難しくなった最終日も、1イーグル、4バーディー、1ボギーの66だった。同じ埼玉栄高で同学年の佐藤快斗選手(3位)、飯田悠磨選手(4位)と一緒に最終組のラウンドに、「いつも通り、リラックスして楽しんでできた」という。そんな中で冴えたのが得意のパットだった。最終日のアベレージが4.80と最難関となった9番パー4(440ヤード)でも「グリーン奥からのアプロー

チが2メートルについて、微妙なラインのパットが入った」と見事なパーセーブだった。関東レベルでの優勝はこれが初めて。「うれしいですね。次の目標は日本ジュニアで上位に食い込むこと。そして将来は賞金王を争うプロゴルファーを目指したい。そのためにはもう少し飛距離を伸ばして、アプローチをよくして」と、早くも次のステップに目を向けた。

「12歳～14歳の部」優勝の戸村空汰選手(川越市立霞ヶ関中2年)は最終18番パー5で、グリーン右の深いラフからのアプローチを3メートルに寄せて、スライスラインを読み切って見事なパーセーブ。これが1打差優勝のウイニングパットとなった。「優勝はとてもうれしいです。でも日本ジュニアに出て頑張りたい気持ちのほうが強いです」と、こちらにも、もう次を見据えていた。

志村選手は戸村選手の中学校の先輩にあたる。表彰式後の記念撮影では、中高の入賞者が入り混じって、祝福の水かけとなって笑顔が弾けた。そこには、猛暑も吹き飛ばすような青春の輝きがあった。

難コース相手に、好スコアの決着 中学同窓の戸村空汰と志村由羅が優勝



「15～17歳の部」3位入賞選手。■左から清水蔵之介(2位、写真■も)、志村由羅(優勝、写真■も)、佐藤快斗(3位、写真■も)。■戸村(左)と志村(右)は霞ヶ関中の同窓生。■「15～17歳の部」最終組は埼玉栄高3年の3選手。■当日は曇りつな快晴だった。■祝福の大量のお水かけ。■ハーフターンの健康チェック。



決勝競技入賞者(12歳～14歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	戸村 空汰	霞ヶ関中2	74	72	72	218
2	西山 修生	山梨大付属中2	74	74	71	219
3	竹田 亮太	おゆみ野南中3	74	70	76	220
4	林田 遼汰	妻沼西中2	77	74	72	223
5	沖田 零	井野中2	74	74	77	225
	金澤 和夢	佐久長聖中3	77	68	80	225

決勝競技入賞者(15歳～17歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	志村 由羅	埼玉栄高3	66	69	66	201
2	清水 蔵之介	目黒日大高3	68	70	67	205
3	佐藤 快斗	埼玉栄高3	65	70	72	207
4	飯田 悠磨	埼玉栄高3	67	69	72	208
5	澤田 竜成	千葉黎明高3	69	69	72	210



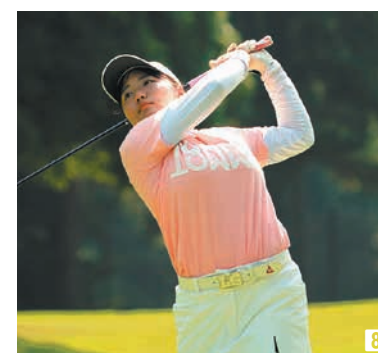
灼熱の夏の女子ジュニア選手権 新地真美夏と清水心結が優勝



「12～14歳の部」3位入賞選手。1左から仁科優花(3位、写真5も)、五十嵐凜(3位、写真4も)、清水心結(優勝、写真2も)、中澤紗来(2位、写真3も)。



「15～17歳の部」3位入賞選手。6左から飯島早織(2位、写真9も)、新地真美夏(優勝、写真3も)、伊藤二花(2位、写真10も)。7新地(左)の勝利を祝福する伊藤(右)。



難コースと高い目標に挑む 選手たちの闘志に脱帽

関東ジュニアの女子選手たちは大汗をかきながらも元気渾身でプレーする。ドライバーでの大胆なフルスイング、コントロールしたアイアンショット、繊細なアプローチに強気のパット。誰もが昨年の優勝者、馬場咲希選手のように、至難の千葉CC野田コースに挑む。そのファイティングスピリットに脱帽である。

3日目の最終日も灼熱のコースだった。「12歳～14歳の部」では清水心結選手(さいたま市立東浦和中3年)が2位の中澤紗来選手(朝霞市立朝霞第二中3年)に3打を付ける209ストロークで優勝。前半はショット好調で3バーディー・ノーボギーで首位に立ち、後半はユーティリティがひっきりながら我慢して2バーディー・1ボギーに収め、68であがった。

「相手は自分と違ってしっかりプレーすることだけを考えてました。最後のバーディーパットは手が震えたけど自分を信じて打てました。昨年の新地さんの優勝スコア、7アンダーを超えたかったけど一緒にはなれた。集中できたので暑さは気にならなかったです。笑顔でやれば幸せが来ると思ってニコニコプレーしました」

「15歳～17歳の部」では清水選手が目標とした新地真美夏選手(共立女子二高1年)が1年生ながら2位に5打差を付けて圧勝。最終日は6バーディー・1ボギーで首位を渡さず、昨年に続く2つの部に跨がる連続優勝である。1年生とは思えぬ鍛えられた体つき。猛暑の中を歩いてプレーした。

「中学でも高校でも先輩が相手でも、やることは自分のゴルフ。ショットはそれほどよくなかったけど、パットが入ってくれました。前半で3つ潜れてリードできた。暑くても歩いたほうがリズムをつくれます。売店に入ったときは体が冷めないように注意しました。ボギーを打っても、バーディーパットを入れ返されても、我慢我慢と思ってプレーしました」

ふてふてしいほどの強さだが、プレーが終われば屈託なく笑う高校1年生。まさに名前通り、「真夏に美しい」ゴルフをする新地真美夏選手が光輝いていた。

決勝競技入賞者(15歳～17歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	新地 真美夏	共立女子二高1	69	66	67	202
2	飯島 早織	ルネサンス高3	68	72	67	207
	伊藤 二花	麗澤高3	67	70	70	207
4	川畑 優菜	麗澤高3	71	71	66	208
5	二宮 佳音	利根商業高2	71	71	68	210

決勝競技入賞者(12歳～14歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	清水 心結	東浦和中3	70	71	68	209
2	中澤 紗来	朝霞二中3	70	72	70	212
3	五十嵐 凜	目黒八中3	69	72	72	213
	仁科 優花	白井中2	70	70	73	213
5	清藤 羽琉	ちはら台西中3	74	72	71	217



KGAジュニア選手のための夏季を締めくくる一戦



■「15歳～17歳の部」上位選手。左から黒田昊(3位)、濱朱姫(優勝、写真■も)、高田嘩琳(2位)。■「12歳～14歳の部」上位選手。左から海老澤愛泉(3位)、林愛輝美(優勝、写真■も)、石井柚妃(2位)。

KGA杯ジュニアゴルフ大会は、8月17、18日の両日に女子の部、男子の部がそれぞれ「15歳～17歳の部」、「12歳～14歳の部」で行われた。

2015年から開催されているこの大会は、当該年の関東ジュニアゴルフ選手権に出場し、日本ジュニアゴルフ選手権に進出できなかった選手が対象。夏休み期間中でありながら、この時期に地域レベルの試合がなかった関東高等学校・中学校ゴルフ連盟(KHGA)から、生徒たちが目標を作って経験を積めるような試合ができないかという要望が関東ゴルフ連盟(KGA)に寄せられ、KHGAとの共催という形で実現した。地域との密着を標榜するKGAにとっても、KHGAとの連携はジュニアゴルファーの裾野を広げるために、とても有意義なことだ。

大会は東京ゴルフ倶楽部と霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催された日本ジュニアゴルフ選手権と日程が重なっていた。そのため出場した選手たちの思いは複雑。

優勝した女子「15～17歳の部」の濱朱姫選手(明秀学園日立高1年)、「同12～14歳の部」の林愛輝美選手(船橋市立小室中3年)は、ともに「本当は日本ジュニアに出たかった」と言い、男子も「15～17歳の部」を制した村井啓矩選手(成城学園高2年)が「日本ジュニアに行けなかった悔しさを少し晴らすことが出来ました」と言えば、「12～14歳の部」を優勝した成松峻選手(西東京市立田無第三中3年)も「関東ジュニアでの悔しさをバネに優勝することが出来た」と話した。

濱選手は昨年の関東ジュニア女子「12～14歳の部」で、現JGAナショナルチームの新地真美夏選手とプレーオフを戦っている。林選手も昨年の千葉県ジュニアゴルフ選手権(中学女子の部)の優勝者。村井選手は2年前の「日本ジュニア12～14歳の部」を5位の好成績。成松選手は今年の関東ジュニアを8位タイでスタートしながら、最終日を熱中症の影響で88と大たたきした。日本ジュニアに出場した選手たちと、いずれも実力は



■「15歳～17歳の部」上位選手。左から田中天晴(3位)、村井啓矩(優勝、写真■も)、安孫子大祐(2位)。■「12歳～14歳の部」上位選手。左から翁浩宇(2位)、成松峻(優勝、写真■も)、荒木敬太(3位)。

上位成績選手

入賞者(女子・15歳～17歳の部)

ランク	名前	所属	Total
1	濱 朱姫	明秀学園日立高・1年	71
2	高田 嘩琳	日本体育大学荏原高・2年	73
3	黒田 昊	埼玉栄高・1年	73
4	鈴木 愛彩	千葉黎明高・3年	74
5	吉田 沙羅	開志国際高・1年	74

入賞者(女子・12歳～14歳の部)

ランク	名前	所属	Total
1	林 愛輝美	船橋市立小室中・3年	72
2	石井 柚妃	南房総市立千倉中・3年	73
3	海老澤 愛泉	坂戸市立桜中・1年	74

入賞者(男子・15歳～17歳の部)

ランク	名前	所属	Total
1	村井 啓矩	成城学園高・2年	70
2	安孫子 大祐	作新学院高・3年	71
3	田中 天晴	明大中野高・2年	72
4	川口 史	千葉黎明高・2年	73
5	齋藤 裕	埼玉栄高・2年	73

入賞者(男子・12歳～14歳の部)

ランク	名前	所属	Total
1	成松 峻	西東京市立田無第三中・3年	74
2	翁 浩宇	横浜市立市場中・2年	76
3	荒木 敬太	渋谷教育学園幕張中・3年	77

紙一重といえるだろう。

4選手の共通点は、日本ジュニアに行けなかったことを自らの肥やしにし、今大会の優勝を目標に据えて練習を積み、それを成し遂げたことだ。例えば村井選手は課題だったショートゲームを集中的に練習し、フィジカルトレーニングも積んで体重は1年前より4キロも増えたという。そういった意味でも、この大会を開催する意義は大きい。

最後に、今年の女子の部を開催した富里ゴルフ倶楽部は、成田国際空港の滑走路増設にともない、今年限りで閉場する。これまでカレドニアン・ゴルフクラブとともに男女のKGA杯を毎年開催し、ジュニア育成に全面的に協力してきた倶楽部がなくなるのは残念だ。濱選手は「グリーンもフェアウェイも美しく、ちゃんと打てばいい音が出て、きれいなターフが取れる。回っていて気持ちいいコースでした」と、閉場を惜しんでいた。



岩井明愛 2002年7月5日生まれ。21年プロ入り。
ツアー3勝。23年シーズンランキング3位



岩井千怜 2002年7月5日生まれ。21年プロ入り。
ツアー4勝。23年シーズンランキング6位



岩井光太 2004年10月19日生まれ。日本大学1年。
23年関東アマチュアゴルフ選手権優勝

勝でしたが、勝ってやるというよりは、流れに身を任せて自分のいい時のまま行っちゃえという感じでした。初優勝が今年4月のKKT杯バンテリンドレイスオープンで、2勝目は9月の住友生命Vitalityレディス東海クラシック。1勝目から2勝目までの間隔は一般的には短いと思われるかもしれませんが、この時点で千怜が既に通算3勝だったので、私には早く追い付かなければという気持ちがあつて、長く感じました。

——2人が高いレベルで競合していることが、活躍の背景にはあるのでしょうか。2歳下の光太さんは、そのような姉たちを見てどのように感じていますか。

光太 姉たちが高校の時からずっと高いレベルで戦っているのは分かっていたんですけど、でも、プロになって活躍できるかどうかは分からなかった。それが、今では想像を超えている感じがする。

——光太さん自身も、今年はお姉さんたちと同じ埼玉栄高を卒業して日大に入学し、急成長している感じがします。

光太 はい、大学に入っすぐにレギュラー選考会があり、そこで好成績を残してから少しずつ調子が上がりました。まず関東アマに調整を合わせたら、4日間をアンダーで回れて2位の

一本志志(Team KGAジュニア出身JGANAシヨナルチーム)に5打差をつける通算16アンダーで終えることができました。自分の欠点などを修正して臨んだ日本アマも、首位に2打差の4位に入ることができました。

明愛・千怜 そうだったんだ。全然気にしていなかった(笑)。

光太 えーっ、日本アマに出て

いるのも知らなかったの？ 初日をトップタイの67で、2日目74で落としたけど、3日目66、最終目は68。最終ホールでボギーをたたいたちゃったけど、それがないければプレーオフにも加われたかもしれないんだ。「た

ら」「れば」はいけないけど…。

千怜 確かに、最近の光太はうまくなったなという感じが、すごくしていたからね。以前はそんなにいい報告がなかったから、関東アマ優勝とか日本アマ4位とか聞くと、うれしくなるよね。

明愛 最近光太と一緒にゴルフをやっていないけど、以前から確かに飛距離もある方だからね。うらやましく思っているよ。

——3人はけんかをすることはありませんか。

光太 子供の時は姉たちと、けんかもしましたよ。でも、何が原因かは覚えていない。めっちゃ、くだらないことだったのでは(笑)。

明愛 今は全然、けんかなんかしていないですよ。昔は何でけんかしたのか、全然思い出せない。何か不思議だな。

千怜 うん、本当に不思議。全部忘れてる(笑)。

——3人は子供の時からトレーニングは欠かさないと聞いています。

明愛 私も千怜も陸上部だったので、小学校の時は家の周りを走ってから学校に行っていました。私は小学校6年の時はサツ

特集2 TEAM KGA ジュニア

TEAM KGA
JUNIOR 岩井



岩井ファミリーインタビュー

活躍の源はTKJの教え「今でも助かっています」

2023年のゴルフ界で注目を集めたのが岩井ファミリーだ。2021年6月にそろって日本女子プロゴルフ協会のプロテストに合格した双子の姉・明愛(あきえ)、妹・千怜(ちさと)両選手はプロの舞台でも勝利を重ね、弟の光太さんも日大に今年進学すると5月の関東アマチュアゴルフ選手権を優勝、6月の日本アマチュアゴルフ選手権を4位の活躍。ホットな話題を提供し続けるTEAM KGA ジュニア出身の3人に活躍の背景、家族の絆、将来の夢などを語ってもらった。(司会・構成=広報委員会参与鈴木遍理)

——明愛プロは今年4月にプロ初勝利を挙げると9月には2週連続優勝の活躍、一方の千怜プロも昨年に続き今年も2勝を挙げ、早くも4勝。プロ転向からまだ2年ですが、これほど勝てるというのはイメージしていましたが。

明愛 プロになる前はこんなに早く勝てると思っていませんでしたが、試合を続けながらイメージしているうちに、少しだけですけど、自信が出てきました。本当は千怜のように去年のうちに勝ちたかったのですが、そこは遅かったかなと。

千怜 昨年は前半戦であまり試合に出ることができなかったのが悔しくて、後半戦は絶対に優勝してやろうと思っていたんです。8月のNEC軽井沢72ゴルフトーナメントで初優勝できたのはうれしかったのですが、翌週のCAT Ladiesも勝てたことには自分でもビックリしました。あの時はショットに迷いがなく、自分でもいい感じだと思っていたので、流れが来ているうちにと必死に頑張りました。昨年目標としていた「2勝」を達成できました。

明愛 私も2、3勝目は連続優

光太 自分も高校の時から一緒にやっていました。今でもオフシーズンになると、3人で小学校に行つてトレーニングすることもあります。

明愛 初心に戻ることもできませんからね。

——そのように工夫してトレーニングを積んできた3人は、関東ゴルフ連盟が強化指定した選手による「TEAM KGA ジュニア」の卒業生でもある。

明愛 「TEAM KGA ジュニア」に選ばれてからは練習環境にも恵まれて、技術を身に付けていく上でとてもありがたかったです。

千怜 本当にそうですね。練習環境を作っていたとき、助かりました。

明愛 技術もそうですが、礼儀とか挨拶とか言葉遣いとかスピーチとか、食事のマナーに至

るまで、きめ細かに教えていただきました。ゴルフは目上の人と接することも多いので、あの時の教えが今でもすごく助かっています。それに私たちがジュニアの時はなかなか成績が出ず、友達も少なかった。それが友達も増えていきました。

光太 自分も以前は結果がなかなか出なくて、友達もできず辛かったです。「TEAM KGA ジュニア」に入って友達も増えて、

TKJに入つて友達も増えて、とてもうれしかった（光太）

——千怜プロはプロ初優勝の時に「歴史を作りたい」と言っていた。どのような歴史を作っているか、教えてください。

千怜 石川遼さんが社会現象を起こしたように、今までに聞い

つからですか。

明愛 私も千怜も埼玉栄高では1年からゴルフ部に入つたのですが、プロになりたいと思つたのは2年か3年の時。それまでは将来が分からず、とりあえずゴルフをやるうという感じでした。高校にはライバルも多くいたので、その中で技術を上げていこうと思つたことが、きっかけです。

千怜 私もプロになりたいと思つたのは同じくらいの時で



がらやっていた感じですね。

——2人は小学校に入るところからお父さんに連れられてゴルフ練習場に行き、小、中学生では競技でも好成績を残していました。ゴルフに専念し、本格的に続けていこうと決めたのは、い

つからですか。

明愛 私も千怜も埼玉栄高では1年からゴルフ部に入つたのですが、プロになりたいと思つたのは2年か3年の時。それまでは将来が分からず、とりあえずゴルフをやるうという感じでした。高校にはライバルも多くいたので、その中で技術を上げていこうと思つたことが、きっかけです。

千怜 私もプロになりたいと思つたのは同じくらいの時で

を続け、埼玉栄高でゴルフ部に入つた。

光太 でも、高校ではゴルフの成績が少し上がればいいやくらいの軽い気持ちでした。それが、今年入学した日大で4年生の杉浦悠太さん（JGAナショナルチーム）ら先輩を見ていたら考えが変わってきて、このくらいのレベルになるために自分で考え、本格的にやってみようと思ふようになりました。フィジカルトレーニングも毎日あるので、鍛えているうちに体も大きくなり、飛距離も伸びています。今はドライバーで290ヤードくらい。

今までに聞いたことがない 歴史を作りた（千怜）

歴史を作りた（千怜）

がらやっていた感じですね。

す。正確に言えば、3年生の時。アマチュアとしてプロの試合に出るようになり、今後もここで戦っていくためには覚悟を決めなければだめだと思うようになりました。

——光太さんも中学までは陸上

明愛 私たちの家はゴルフを続ける上で金銭面がかつかつでした。ジムに行くお金もなかったの、小学校にお願ひしました。父が鉄棒と登り棒を使ったメニューを考えてくれたんです。

千怜 斜め懸垂を12回3セットとかね。

たことがない歴史を作りたいんです。これまでにないことをやる人が出てくれば皆さん驚いてくれますし、そういう現象が私は好きなんです。

——今年、2人がプレーオフを戦つた時の直ドラ競演などは、まさにそうでした。

明愛 面白そうだと思つてやつたけど、それからはいろいろな人があのシーンのことを言ってくれて、驚いています。自分が一所懸命やっていたら、それをみんなが見てくれて感動してくれると思ひました。

——最後に、これからの夢を。

明愛 大きな家を建てたいです。2階建てで庭があつて、海が窓から見えるような。そのためにも頑張らなければ。

千怜 海外で戦いたいというの

も今はうつすらあつて、そうしたらメジャーで勝つて、大きな存在になっていきたいです。

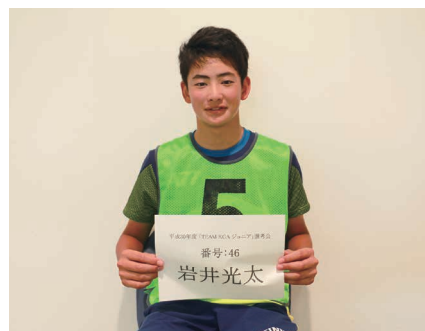
光太 自分は最終的な目標は米PGAツアーです。そのため大学での4年間をしつかり充実させて、挑戦していきたいと思ひています。

岩井ファミリーの4カ条

岩井ファミリーの絆の強さは「岩井家の4カ条」にも表れている。

- (1) 困っている人がいたら助ける
- (2) 独りぼっちの子がいたら仲間に入れる
- (3) 自分がやられて嫌なことはしない
- (4) 女の子と小さい子に優しくする

父親の雄士さんは子供たちが小学生の時から、毎朝の出勤時にこの4カ条を唱えさせました。「明愛は1番、千怜は3番を言いなさい、という感じでした」（明愛、千怜）。「僕は残っている2つをいつも唱えていた」（光太）。おかげで明愛プロは「学校で一人の子がいたら自然と話しかけるようになった」という。「各家庭がこういうのを毎日唱えていたら、いじめとかなくなりそう」。千怜プロがこう言えば、明愛プロは「うん、絶対なくなるよね」。4カ条は3姉弟に今も深く染みついている。



光太 2017年～22年TKJ認定選手。21年関東ジュニア選手権14位（写真は2017年撮影）



明愛（右） 2014年～20年TKJ認定選手。19年関東高校ゴルフ選手権優勝。千怜（左） 2014年～20年TKJ認定選手。19年、21年関東女子ゴルフ選手権2位（写真は2016年撮影）

認定選手一覧

氏名	学校名	学年
◆クラスS 男子 (4名)		
上村 大和	目黒日本大学高	2年
宇田川 理茶度	目黒日本大学高	1年
渋谷 晃太郎	ルネサンス高	1年
大郷 喜一	埼玉栄高	1年

◆クラスA-1 男子 (6名)		
井上 笑慈	佐野日大高	2年
川口 史	千葉黎明高	2年
常盤 和也	作新学院高	2年
栗野 泰成	水戸啓明高	1年
中山 大生	千葉黎明高	1年
山崎 咲寿	ルネサンス高	1年

◆クラスA-2 男子 (6名)		
桑谷 海翔	作新学院高	1年
小林 麟太郎	早稲田実業高	1年
竹花 颯汰	目黒日本大学高	1年
原 蓮太郎	共愛学園高	1年
齋藤 旬一	那須塩原市立三島中	3年
竹田 亮太	千葉市立おゆみ野南中	3年

◆クラスB 男子 (8名)		
金澤 和夢	佐久長聖中	3年
中山 怜音	立教新座中	3年
片野 貴一朗	光英VERITAS中	2年
島田 楽生人	伊勢崎市立四ツ葉学園中	2年
戸村 空汰	川崎市立霞ヶ関中	2年
西山 修生	山梨大学附属中	2年
林田 遼汰	熊谷市立妻沼西中	2年
東 路敏	熊谷市立大幡中	2年

◆クラスC 男子 (8名)		
翁 浩宇	横浜市立市場中	2年
達坂 巨希	四街道市立旭中	1年
高浦 維吹	袖ヶ浦市立昭和中	1年
峯村 怜	安曇野市立豊科北中	1年
池田 烈琉	いすみ市立中根小	6年
岡田 凜空	町田市立小山田小	6年
須藤 はんと	柏市立酒井根小	6年
山崎 絆太	海老名市立社家小	6年

氏名	学校名	学年
◆クラスS 女子 (4名)		
松原 柊亜	日本ウェルネス高	2年
伊藤 美輝	目黒日本大学高	1年
長澤 愛羅	ルネサンス高	1年
清水 心結	さいたま市立東浦和中	3年

◆クラスA-1 女子 (6名)		
遠藤 桂音	明秀学園日立高	2年
鈴木 姫琉	麗澤高	2年
二宮 佳音	利根商業高	2年
秋生田 みらん	共立女子第二高	2年
永田 愛梨	浜松学芸高	1年
柳原 由依	共立女子第二高	1年

◆クラスA-2 女子 (6名)		
伊藤 愛華	埼玉栄高	1年
田村 萌来美	ルネサンス高	1年
芳賀 恵夏	早稲田実業高	1年
五十嵐 凜	目黒区立第八中	3年
清藤 羽琉	市原市立ちはら台西中	3年
中澤 紗来	朝霞市立朝霞第二中	3年

◆クラスB 女子 (8名)		
荒木 結衣	香蘭女学中	3年
臼田 藍	高崎市立寺尾中	3年
人見 陽乃亜	下妻市立千代川中	3年
岡田 麻愛	藤沢市立藤が岡中	2年
鈴木 花風	白井市立七次台中	2年
戸張 美音	川崎市立東高津中	2年
仁科 優花	千葉市立白井中	2年
目黒 風	魚沼市立広神中	2年

◆クラスC 女子 (8名)		
安藤 絹	静岡市立安東中	1年
飯田 柚月	船橋市立御滝中	1年
境 美玲	江東区立有明西学園中	1年
重原 純奈	大栄みらい学園中	1年
近重 怜奈	埼玉栄中	1年
宇津木 さやか	開智望小	6年
衣川 真夢	開智小	6年
佐野 心咲	昭和女子大附属昭和小	6年

2024年度「TEAM KGA ジュニア」認定式



関東ゴルフ連盟(KGA)が強化指定した選手による2024年度「TEAM KGAジュニア」の認定式が11月3日、武蔵丘短期大学(埼玉県)で行われた。今回は小学校6年生から高校2年生までの男女64人が認定された。

式ではKGAジュニア育成委員会の土屋圭吾強化部会長が「この中から何人がナショナルチームに行けるか楽しみにしています。一年間、頑張ってください」と挨拶し、同委員会の笠川喜久男委員長が男子代表の上村大和選手(目黒日大高2年)と女子代表の清水心結選手(さいたま市立東浦和中3年)に認定証を授与(写真左)。上村選手が「ここにいる選手はライバルであると共に仲間です。頑張った時は素直に認めて褒め合える、間違ったことをした時はしっかりと注意し、励まし合える。みんなが寄り添え合えるチームにしたい」と決意を表明した。

式にはTEAM KGAジュニア卒業生からも祝福のビデオメッセージが寄せられ、吉田優利プロ(写真右上)は「練習や試合で失敗しても、それは必ず将来の糧になると、自分を信じて

練習に打ち込んで欲しい」、双子姉妹の姉・岩井明愛プロ(写真右下)は「TEAM KGAジュニアで学び、今も大事だと思っているのは挨拶などの礼儀とトレーニング」、妹・千怜プロは「私が目標にして果たせなかったナショナルチームに、1人でも多く入るよう頑張ってください」と、それぞれが激励した。

認定式に出席できなかった佐藤敏明KGA理事長は「世界のトップゴルファーと称される選手は例外なく誠実でエチケット、マナー、笑顔、感謝の心を大切にしている。皆さんは関東のジュニアゴルファーの先頭に立っているという自覚を持ち、日本を代表するゴルファーを目指して研鑽を重ねていただきたい」とメッセージ。

式を終えた選手たちは各クラスに分かれ、さっそくJLaboの講師陣による「コミュニケーション・スキルアップ」「海外の異文化への理解」などの研修に臨み、付き添いの親権者も「食育プログラム」などの講習を受けた。



プレーヤーズインタビュー 「多くの人の励みになってます」



日本ゴルフ協会（JGA）は、来年秋、日本女子グランドシニアゴルフ選手権競技を創設する。60歳を超えて元気に競技を楽しむ女性ゴルファーの増加に応えるものだ。関東ゴルフ連盟（KGA）は、2017年に関東女子グランドシニアゴルフ選手権競技をスタートさせているが、選手は、さらに日本タイトルへの挑戦という励み、目標ができた。関東女子グランドシニアゴルフ選手権に、第1回から挑戦し続けている橋本泰子KGA副理事長と原田町子KGA競技委員に、日本女子グランドシニアゴルフ選手権への期待と、創設の背景などを聞いた（敬称略）（司会・構成＝広報委員高岡和弘）。

——お二人がゴルフを始められたきっかけと、競技に取り組むようになった経緯をお聞かせください。

橋本泰子副理事長 ゴルフを始めたのは、15歳の時。高校入学後、両親に勧められてゴルフ部に入ってからです。大学でもゴルフ部に所属し、3、4年生の時、日本女子学生選手権や日本女子オープンに出場しました。

大学卒業と同時に結婚、二人の子供ができましたので、月に1度、ラウンドできればいい程度になりました。子供が大きくなり、カントリークラブ「ザ・レイクス」の会員になったのは94年です。

レイクスに入ると、KGA倶楽部対抗の前の報知新聞主催の倶楽部対抗や茨城レディースという県内の倶楽部対抗に出ましようという話になり、競技ゴルフを楽しむようになりました。50歳になる2000年から、日本女子シニアに挑戦しました。そこで大学時代に競い合った増田京子さんと長瀬万寿さんらに再会できました。何十年ぶりに会って、また一緒に競い合える素晴らしいさを実感しました。

原田町子 小学生の時、父親について練習場に行き、球を打ち

目標、意識に変化はありますか。

橋本 関東の予選、決勝を通過しなければいけないので大変です。頑張って練習しなければと、思っています。この前、「日本を目標しましょう」と同年代の友人にメールしたら、「10歳以上も下の人と戦うのは難しい」と返事が来たので、「諦めたら終わり。頑張りましょう」と返信しました（笑）。

原田 JGAの競技委員をしていた時に親しくなった東北ゴルフ連盟の方に、「来年、日本女子グランドシニアができるから、会えたらいいですね」と連絡したら、彼女は新たにスポーツクラブに入って体を鍛え、出場を目指しているそうです。私だけでなく、多くの人の励み、目標になっています。

——ゴルフの魅力、競技ゴルフの魅力について、どうお考えですか。

橋本 家族でのラウンドも楽しいし、緊張しながらプレーする競技も楽しい。幅が広くて、年齢や技量によっても様々に楽しめる素晴らしいスポーツだと思います。

原田 皆さん、ゴルフをしたいから元気にされているし、けが

始めました。ただ、ゴルフはおじさん達のスポーツという感じで、熱中はしませんでした。学校を卒業してから父親にクラブを買ってもらい、習志野カントリークラブの会員になりました。ハンディキャップが12ぐらいになってから、習志野の先輩たちに誘われて競技に出るようになりました。最初に関東女子ゴルフ選手権競技に出場したのは、1982年、31歳の時でした。関東月例に参加するようになり、友達がたくさんできました。みんな、もつと上に行こうと励まし合ったのが、上達の力になりました。

——橋本副理事長は、JGAの理事でもあります。日本女子グランドシニアが創設（2024年10月31日）、武蔵CC笹井コース）されることになった背景、意義についてお話しください。

橋本 10年ほど前まで、JGAは女子のグランドシニアを行うことを考えていませんでした。競技人口が多い関東地区以外は、個別に競技を成立することができず、女子アマと女子ミッド、女子シニア予選を一つの競技の中で行って、それぞれの通過者を決めるような状態だった

や病気をされても必ず復帰されてくる。ゴルフの力つてすごい、いつも言っています。私自身、ゴルフのために体作りに励んだり、食べるものに気を付けたりしています。

橋本 夫が手術で肩の筋肉を失い、自分でシャツも着られない状態でしたが、「カートに乗って、少し歩くだけでも」とゴルフを再開してもらったら、シャツが着られるようになりました。

私自身は、大きな病気をした

ことがありませんが、膝や腰を痛めることはあります。それでもサポーターをしてでもやりたいと思うのは、ゴルフが楽しいからです。ゴルフが楽しいから、運動をしよう、健康でいようという気持ちにもなります。

——お二人がゴルフを愛し、日本女子グランドシニアの創設がさらに競技ゴルフへのモチベーションを高めていることが、よくわかりました。ますますお元気で、ご活躍されることを祈っています。本日はありがとうございました。



橋本泰子
1950年生まれ。KGA副理事長、カントリークラブザ・レイクス所属。1972年、日本女子オープン出場。2000年から日本女子シニア選手権に計9回、出場。



原田町子
1951年生まれ。KGA競技委員、アコーディア・ゴルフ習志野カントリークラブ所属。1989年から、日本女子アマチュア選手権、日本女子ミッドアマチュア選手権、日本女子シニア選手権に計14回、出場。



からです。でも、今、各地区連盟の女子シニア競技への参加者がどんどん増えています。KGAは2017年、年齢が上がっても競技を楽しんでもらうために関東女子グランドシニアを創設しましたが、今回、日本女子グランドシニアができるのも、そうした時代の流れ、要求に応えるためです。

原田 KGA主催競技に、関東女子、ミッド、シニア、そしてグランドシニアができ、年齢が増えても目標があるので、常に目的意識を持つことができています。

橋本 ゴルフ人口の中で、女子の割合は20%程度とそう多くはありませんが、競技志向の方は着実に増えています。60歳以上の競技者にとって、今まで関東のグランドシニアで終わっていたのが、JGA主催の全国規模のグランドシニアができるのは、すごくうれしいことです。日本女子シニアの時、全国のプレーしがいのあるコースをラウンドできるのが本当に楽しかったです。

頑張って練習しなければ、諦めたら終わり。

——日本女子グランドシニア創設によって、ご自身のゴルフの

INFORMATION

寄付のご報告

10月19日、「関東ゴルフ会員権取引業協同組合 (KGK)」様から KGAジュニア育成委員会普及事業へのご寄付をいただきました。寄付金はジュニア育成普及のために、有効に活用させていただきます。

左から佐藤仁志 (KGK理事・事務局長) 様、佐藤敏明 KGA 理事長、笠川喜久男 KGA ジュニア育成委員長、津々木秀司 (KGK 理事長) 様、塩出輝雄 (KGK チャリティーゴルフ実行委員長) 様



広報委員 (現・副委員長) を退任される 塚越 克一さんへの謝辞

(一社) 関東ゴルフ連盟副理事長 (前広報委員長) 吉田 裕明



“ミスター広報委員会”の塚越克一さんが今期をもって退任される。今年の関東ミッドシニア決勝まで20年以上280余の競技会場でカメラマンとして取材に当たってこられた。競技会参加者の中には、スタートホールのティーイングエリアで鏝を後ろにかぶったキャップ姿で大きなカメラを構える塚越さんに写真を撮って頂いた記憶を持つ方も多いと思う。2011年には副委員長就任、取材現場でのまとめ役として広報委員ばかりでなく競技委員などからも頼られてきた。塚越さんは87歳とは思えない程お元気。この数年は、ご高齢を承知で特にお願いで委員に留まって頂いた。塚越さん、今後も益々お元気で沢山のエージシュート達成や素敵な写真の撮影にご活躍下さい！

（一社）関東ゴルフ連盟副理事長（前広報委員長） 吉田 裕明



塚越氏撮影写真が本誌の多くの表紙を飾った

塚越氏が撮影した写真が表紙を飾った『KGA GOLFER'S NEWS (旧・KGA NEWS)』は30余号に及びます。そのなかからご本人がお気に入りの表紙を3点選んでもらいました。



2007年秋号 (No.95)

2007年関東アマチュアゴルフ選手権決勝 (千葉カントリークラブ梅郷コース)。スタートティーで素振りをする石川遼選手。



2007年冬号 (No.96)

2007年関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権決勝 (我孫子ゴルフ倶楽部)。朝日を浴びて輝く18番グリーンとヒマラヤ杉。



2022年冬号 (No.139)

TEAM KGAジュニアの卒業生、吉田優利選手と馬場咲希選手の対談が行われた浜野ゴルフクラブにて。

ありがとう。
そして、さよなら富里GC。

関東ゴルフ連盟 (KGA) 主催の決勝、予選競技の会場として、数々の選手を見守ってきた千葉県・富里ゴルフ倶楽部 (以下富里GC) が、成田国際空港の拡張に伴い、12月31日で閉場する。

KGA 主催競技では、2006年の関東シニアゴルフ予選以降、関東女子ゴルフ選手権、関東ジュニアゴルフ選手権 (男子)、関東シニアゴルフ選手権の各決勝会場になるなど、月例競技を含めると22回もの競技会が富里GCで開催されてきた。

中でも、ジュニア部門では、KGA杯ジュニアゴルフ大会が、今年の「女子の部」まで6年連続 (新型コロナで中止の20年を除く) で開催され、男女のジュニア選手を鍛える役割を果たしてきた。

2017年に行われた関東女子ゴルフ選手権決勝の出場

選手は、華やかな顔触れだった。優勝した吉田優利選手は、その後、トッププロに駆け上がり、2位の小滝水音選手も今年、プロツアー競技で初優勝を果たした。4年後のプロテストをトップで合格した佐久間朱莉選手、今年11月のプロテストで合格した本明夏選手、河村来未選手、神谷和奏選手など、実に16人もの女子プロツアー選手を送り出した選手権だった。当時、中学生だった岩井ツインスの妹、千怜選手も、53位タイに入っている。それぞれが、富里GCの厳しいコースに挑み、成長していった。

東京グリーン富里カレドニア株式会社社長の早川治良会長が、世界最高レベルのコース造りを目指して、富里GCを開場させたのは、1989年。名設計家のマイケル・ポーレット氏に依頼して、後のコース

造成の手本となる1グリーン、リンクス型のコースが誕生した。

うねったフェアウェイとグリーンに加え、要所を締める白砂のバンカーと池。こうしたハード面だけでなく、メンテナンส์でも高い技術を誇り、富里GCと翌90年に開場した姉妹コースのカレドニア・ゴルフクラブは、超高速グリーン時代の先駆けとなった。猛暑となる日本では、ベント芝の高速グリーンは無理と言われていたが、「グリーンは心臓」という早川会長の信念からだった。また、両倶楽部には、バンカー専門の要員がいて、常に砂の補充、メンテナンスを欠かさない。今年の関東シニアゴルフ選手権決勝最終日。富里GCは、前夜からの豪雨に見舞われて多くのバンカーのり面が崩れたが、あつという間に修復されたのは、日ごろの作業、努力を積み重ねてきた成果だった。

当日、自らバンカーの修復作業に加わった座間英二・富里GC常務取締役支配人は、「早川会長から『何のため、誰のためにゴルフ場はあるのか』と問われ、大会時だけでなく、普段もジュニア選手に開放してきました。稲見萌寧選手や馬場咲希選手、地元の中高生たちも、ここで腕を磨いてきました」と話す。

関東ゴルフ連盟の内藤正幸競技委員長は「一点で狙っていくティショット、平らな所がないフェアウェイとグリーン、様々な技術が求められるアプローチなどを通じて、世界に羽ばたいていく選手をコースに育てていました」と言う。さらに「競技によって様々なセッティングができ、私たち競技委員もこのコースに鍛えられました。また、いつも最高のコンディションの下、競技を運営することができました。心から感謝を申し上げます」と続けた。

「感謝」。これは、富里GCでの競技に関わった全員の思いだろう。

(広報委員 高岡和弘)

編集 後記

142号をお届けします。今号では競技レポートの他、「JGA WAG 1 DAYスクール」、「岩井さんのご一家明愛・千怜・光太3選手のインタビュー」、来年創設される日本女子グランドシニアゴルフ選手権についての特集を掲載させていただきました。

さて、広報委員会では長く委員をお務めいただいた塚越克一副委員長が引退されます。塚越さん、ありがとうございました。

また、大変残念ですが富里ゴルフ倶楽部が年末で閉場となります。小生も友人が会員で何度かうかがいましたが、同GCは外国人設計の先駆けとなり、国内のゴルフ場業界に大きな影響を残したコースではないでしょうか。

最後に今年も関係各位にはお世話になりました。ありがとうございました。

(広報委員長・近藤勇樹)



KGA^{GOLFER'S} NEWS

2023年12月25日発行
KGA GOLFER'S NEWS No.142
発行所／一般社団法人 関東ゴルフ連盟
〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番11号
銀座SCビル4階
TEL 03-6278-0005 FAX 03-6278-0008
ホームページ <http://www.kga.gr.jp>
発行人／佐藤敏明 編集／広報委員会



富里ゴルフ倶楽部

設計：J・マイケル・ポーレット

開場：1989年6月10日

閉場：2023年12月31日

運営会社：東京グリーン富里カレドニアン株式会社